

# 「チェンジ感染対策」

## ～マスク常着・アルコールスプレーを携帯して～

施設名：介護老人保健施設 白川園

発表者：仲村さやか

### 【はじめに】

当園は感染対策委員会を中心に感染対策のマニュアル化を図り、感染拡大防止を実施している。平成 19 年においては、そのような状況下で、インフルエンザによる集団感染を経験した。その経験を機に、さらなる感染対策への取り組みと、感染拡大防止の立案、それらの周知徹底と実施により、スタッフの意識向上へと繋げる事が出来た。各、年度ごとの病院受診状況の比較と、その中で感染症の推移について取り上げて比較し、さらにスタッフへのアンケート調査を実施し、その結果より意識の変化について考察した。今回、当園での感染対策の取り組みの中で主に、上気道感染やインフルエンザ予防を中心とした感染対策に重点をおき報告する。

### 【方法と実施期間】

実施期間 平成 19 年 3 月～

方法 スタッフのマスク常着（就業時）  
アルコールスプレーの携帯  
（携帯用速乾性手指消毒剤）  
職員アンケートによる意識調査  
上気道感染等による病院受診調査、  
年度別比較  
面会者への協力依頼

### 【経過及び結果】

平成 19 年より、当園では感染対策委員会の機能強化を図り、加えて感染対策マニュアルを見直した。平常時の標準予防策に加え、就業時のマスク常着と、アルコールスプレーの携帯を実施した。1 ケアごとの手洗いに加え、アルコールスプレーにて手指の消毒を行った。当初、携帯スプレーの容器が大きめであったため、携帯が定着するのに

時間がかかった。試行錯誤の結果スリムな容器に変更、ポケットに入れた時の違和感はほぼ解決でき、携帯率もアップした。現在では、マスク着用、アルコールスプレーの携帯はマニュアル化され、ほぼ 100% 近い実施率である。ほかに職員の感染対策に対する意識向上を目指し、毎朝の申し送りにて周知徹底を呼びかけた。その後のアンケート調査でも感染対策による職員の意識向上が伺えた。また、上記取り組みにより、病院受診は減少傾向であることがわかった。平成 19 年と平成 20 年の病院受診を比較した所、平成 19 年の病院受診率が 83%、平成 20 年が 17% と統計上も明らかであった。今後も継続して評価していくこととする。また、インフルエンザに感染した疑いのある入所者に関しては、居室の隔離、インフルエンザ迅速検査を行い、早期の診断、対応が可能となった。感染対策委員会としても定期的に標準予防策が実施されているか確認、現場での情報収集、効果的介入、さらにハイリスク者のリストアップ、マニュアルの見直し、施設内感染が発生しても迅速に対応できるスタッフ教育による体制づくりを心がけている。また、来園者においては、インフルエンザの流行時の面会制限と平常時においてもマスク着用、手洗い、うがいの協力依頼を行い、トラブルなく実施できた。

### 【考察】

今回、マスク常着、アルコールスプレーの携帯を行い、さらに感染対策による意識向上を目指し取り組んできた。員の意識向上は、アンケートにて、ある程度の成果が得られたと感じられた。感染対策、その基本は環境が清潔であるとともに、私達、介護者が清潔であること、そのため、手洗い、うがい等の標準予防策を継続して行うことが

大切と考えられる。

【終わりに】

近年、病院や高齢者施設での集団感染の事例報告が後を絶たない、高齢者はさまざまな基礎疾患を持つと同時に免疫機能の低下をきたしているため、感染すると重症化しやすいハイリスク者が多い。したがって施設における感染対策は重要な意味をもっている。入所者の安全な療養環境を確保するためにも、今後も当園に合った感染対策を模索していきたい。

感染対策は永遠に続く・・・・・・・・・・